

千葉市新基本計画審議会地方創生部会 第2回千葉市まち・ひと・しごと創生会議 議事録

- 1 日 時：平成27年11月5日（木） 18：00～20：10
- 2 場 所：千葉市生涯学習センター 3階 特別会議室
- 3 参 加 者：《委員》11名
栗飯原希委員、大庭正和委員、北村彰英委員、下村武史委員、田村哲子委員、
辻徳次郎委員、遠山宏幸委員、村尾憲治委員、村館靖之委員、矢田玲湖委員、
吉開真一郎委員
《事務局》6名
川上総合政策局長、稲生総合政策部長、藤代政策企画課長、
柿沼政策企画課課長補佐、藤牧主査、加来主査、中村主任主事、積田主任技師

4 議 題

- (1) 会議の公開及び議事録の取り扱いについて
- (2) 千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略素案について
- (3) 国家戦略特区の提案について
- (4) 市民意識調査について
- (5) 今後の進め方について
- (6) その他

5 議事の概要

- (1) 会議の公開及び議事録の取り扱いについて
会議の公開及び議事録の公表について、事務局から説明し、了承された
- (2) 千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略素案について
千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略素案について、事務局から説明し、委員が意見交換した。
- (3) 国家戦略特区の提案について
国家戦略特区の提案について、事務局から説明し、委員が意見交換した。
- (4) 市民意識調査について
市民意識調査について、事務局から説明し、委員が意見交換した。
- (5) 今後の進め方について
今後の進め方について、事務局から説明した。
- (6) その他
審議会の開催スケジュールについて、事務局から説明した。

6 会議経過

～ここから、会議逐語録～

1 開会

【藤代政策企画課長】

ただいまより、第2回千葉市まち・ひと・しごと創生会議を開催させていただきます。委員の皆様方におかれましては、ご多用中の折、お集まりいただき厚く御礼を申し上げます。

私は事務局の政策企画課長の藤代でございます。どうぞよろしく願いいたします。

はじめに、総合政策局長の川上よりご挨拶を申し上げます。

【川上総合政策局長】

皆様こんばんは。本日は大変お忙しい中、また遅い時間にもかかわらず、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。前回の7月の第1回会議では、委員の皆様方から、私どもが作成いたしました人口ビジョンおよび総合戦略の骨子案につきまして、様々なご意見をいただきました。それを踏まえまして、庁内で議論を重ねまして、また議会のご意見もいただきながら、今回素案の方を作成させていただきました。今回の素案につきましては、特に人口ビジョンの方で産業構造の分析を進めたところがございます。これを踏まえた本市の産業の方向性などについて、皆様のご意見をいただければと考えております。去る10月30日の新聞紙上にもございましたが、私ども地方創生に向けた取り組みの1つとして、国家戦略特区の提案をいたしました。幕張新都心から挑戦する未来都市実証特区というものでございますが、内容といたしましては後ほど説明させていただきますが、簡単に申し上げますと、ドローンやロボットタクシーなど、そういった先端技術の実証実験を内閣府の方に提案いたしました。本日はこういった素案や取り組みにつきまして皆様方のご意見をさらにいただきながら、人口ビジョンおよび総合戦略を完成に向けて進めていきたいと考えておりますので、本日はよろしく願いいたします。

【藤代政策企画課長】

続きまして、北村部会長よりご挨拶をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

【北村部会長】

今、川上総合政策局長からお話がありましたように、7月の第1回会議の審議結果を踏まえて、今回審議いただく素案が出来上がってきております。この審議会の役割は、千葉市の地方創生のために、委員の皆様方の専門分野あるいはご経験をもとに、千葉市の人口の将来ビジョンや戦略に反映させていくということですので、よろしく願いいたします。これから市より、素案について説明していただきますけれど、皆様方からはご意見やご提案、それからさらに市が他の自治体あるいは専門家と連携して行えると思えるような取り組みについて、ご意見をお聞かせいただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【藤代政策企画課長】

ありがとうございます。それでは、以降の進行につきましては、北村部会長をお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【北村部会長】

最初に会議の成立についてご報告申し上げます。本会議は委員定数12名のところ11名が出席しておりますので、千葉市新基本計画審議会運営要綱の第4条第2項により成立しております。坂戸委員が本日欠席なのですが、ご存知のように坂戸委員は、過日叙勲をされて、いらっしゃればここでお祝いの言葉を述べようと思っていたのですが残念です。またの機会とさせていただきます。

2 議題

(1) 会議の公開及び議事録の取り扱いについて

【北村部会長】

それでは、お手元の次第にしたがいまして、会議を進めさせていただきます。これより議題に入らせていただきます。

議題の1「会議の公開及び議事録の取り扱いについて」でございますが、事務局から説明をお願いいたします。

【藤代政策企画課長】

会議の公開及び議事録の取り扱いについてでございますが、千葉県情報公開条例の規定に基づきまして、附属機関の会議は原則公開となっております。本日の会議におきましては、非公開とすべき事項はございませんので、会議は公開として、出来上がりました議事録につきましても、公表させていただきたいと存じますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

【北村部会長】

ただいま事務局から説明がありましたが、本日の会議は公開、議事録は公表ということです。ご異議なければ、そのようにしたいと考えておりますけれど、よろしいでしょうか。

【委員一同】

(異議なし)

(2) 千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略素案について

【北村部会長】

それでは、議題2「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略素案について」、議題3「国家戦略特区の提案について」、議題4「市民意識調査について」の3つにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【稲生総合政策部長】

皆様こんばんは。総合政策部の稲生でございます。よろしくをお願いいたします。

ただいま部会長からありましたように、議題の2、3、4とまとめて恐縮でございますが、人口ビジョン及び総合戦略についてまだ素案という段階ですが、この後説明をさせていただきます。人口ビジョンにつきましては、部分的にまだ分析が必要なところ、また議題4にありますように、市民意識調査等も今同時並行で進めておりますので、この辺りも反映させていく予定です。また、総合戦略につきましては、現時点では、千葉市の新基本計画や実施計画に盛り込まれている事業を掲載している段階で、拡充する事業や新規事業などは、庁内や庁外で議論を進めているところで、具体的にその部分は入っておりませんので、十分ではないと感じる部分があるかと思えます。10月30日に提案した国家戦略特区につきましても、総合戦略の方に盛り込んでいく予定です。

それでは、資料1の千葉市「人口ビジョン」素案(概要)をご覧ください。前回の骨子案で説明した箇所は簡略化し、新たに加えたところを中心にご説明いたします。まず、「1 人口減少時代における国と地方の現状」の「(2) 千葉県の現状」についてです。千葉県が人口ビジョン及び総合戦略を策定し、県全体の人口は2010年からの50年間で、約188万人減少し、約620万人から約433万人になるとの見通しを出しました。ただ、県としては、合計特殊出生率が

国の見通しにより回復することに加え、千葉県から転出した女性にアンケートを実施したところ、再び千葉県に住みたいとの回答が53.1%であったことから、2060年に人口が433万人になるところを、576万人を確保するとの将来展望を出しています。

「2 千葉市の人口特性、経済産業構造」の「(1) 千葉市と周辺都市の人口動態」につきましては、前回もご説明いたしました通り、人口減少という中で、「④自然動態・合計特殊出生率(TFR)の動向と分析」で、緑区の出生率が比較的高くなっており、若い世代の流入が顕著な近隣市でも出生率が高くなる傾向がみられ、社会増が重要であるという点。

「⑤人口の転入元・転出先」では、本市の場合、県内での動きが43%を占め、特に県の東部、南部から転入し、東京方面へ転出する傾向があります。また、千葉市全体では人口増を維持しているものの、区別では、平成24年から平成26年の3カ年で見ると、花見川区、若葉区、美浜区で人口が減少しているほか、年代を変えると稲毛区が入っている時期もあります。

「⑥人口の年齢別社会移動状況」につきましては、資料4の24ページをご覧ください。図表15は、それぞれの年齢階層の5年間での増減を見るものですが、10代の後半から20代になる階層で転入が増える一方で、20代の後半にかけて転出超過となっています。また、30代、40代の階層につきましても、1995年以降は転入超過となっているものの、やはりこの辺り、今年ちょうど国勢調査がありましたけれども、この世代が落ち込んでいるという傾向が見えてきている。そうしますと先程の20代に加えて、働き盛りである30代、40代を安定的に確保する必要があると考えており、国勢調査の結果は来年度以降公表となるはずですがけれども、注意深く見ていく必要があると考えております。

資料1にお戻りいただきまして、「(2) 千葉市と経済的に一体性を有する圏域」に移ります。「①通勤流動(本市民の通勤先)」では、市内の通勤が57.4%、東京都は22.6%となっており、いわゆる“千葉都民”とは違う状況であるほか、「②昼夜間人口比率の状況」におきましても、首都圏政令市の中でトップの97.5%、中でも中央区では125%となっています。

「③通勤時間の状況」も比較的短い時間となっており、市内在勤者が多く、職住近接の傾向あるいは実現可能性が見て取れるところと言えます。

それらを補強する資料として「⑤パーソントリップ」について、資料4の33ページをご覧くださいと思います。図表22は各都市間での人の動きを示しており、線が太いところほど、行き来が多くなります。東京区部と千葉西北部、埼玉南部、東京多摩部、横浜市は太い線になっていますが、それらと比較すると、千葉市は細い線になっており、千葉の拠点性と合わせて、東京とは一線を画していることが見て取れます。メリット、デメリットがあるとは思いますが、これまでのストーリーを別の資料で示した形となります。

また資料1にお戻りいただきまして、「(3) 千葉市の地域経済分析」について説明いたします。今回国が地域経済循環モデルを示していますが、単純に言いますと、千葉市外で稼ぎ、千葉市内で循環させ、産業や雇用を拡大するという考え方となります。まず、「①千葉市経済の概観」ですが、市内総生産は3兆3742億円であり、県内の17.8%を占めています。「②③千葉市の産業構造」につきましては、骨子案でも記載がありましたが、従業員数、付加価値額ともに、サービス産業の割合が多くなっています。付加価値額に関しましては、幕張新都心地区の本社機能、管理業務機能が全国平均の2.7倍と、幕張新都心の特殊性を示しています。従業員数では卸・小売の割合が24%、付加価値額は22%となっており、サービス産業が中心であると言えます。

今後の成長が見込まれる情報通信業の割合は、労働生産性を含めて、全国平均より低い状況にあります。先に「⑥千葉市の人口転出入と産業」を見ていただきますと、情報通信業や事務系の職業において、若い世代の転出超過が目立ちます。

「④産業別域外収支」「⑤影響力係数と感応度係数」につきましては、資料4の43、44ページをご覧ください。図表31、32の産業別域外収支は、いわゆる貿易収支と同様で、千葉市外との間でどの産業が稼いでいるかを見るものです。図表32の点線の左上にある「電力・ガス・熱供給」これは東京電力の関係。「鉄鋼」はJFE等の関係と思います。その下「対事業所サービス」「商業」が市外から稼いでいることが確認できます。対照的に極端な例として、横軸上にある「鉱業」は、市内での生産がありませんので、すべて市外から輸入していることとなります。

続きまして、45、46ページをお開きください。影響力係数は、地域内の他の産業に与える影響の大きさ、感応度係数は他の産業から受ける影響の大きさを示しています。図表34では、縦軸・横軸1.0を境に、どういう位置関係にあるかを見ることができます。例えば、右上にある「鉄鋼」は、他産業に影響を与える度合も受ける度合も大きいことが分かりますし、右下にある「対事業所サービス」「金融・保険」「商業」は他産業から影響を受ける度合が大きいことが見て取れます。これらを総じて、資料1に戻っていただきますと、千葉市の場合、「鉄鋼」の移輸出超過額が約4000億円と大きく、域外から稼ぐ産業の中心となっていることに加え、影響力係数・感応度係数がともに高く、依然として「鉄鋼」が基盤産業となっていると言えます。ただ、他の産業の影響を受ける度合も大きいため、景気の影響を受けやすく、潜在的なリスクがあるとも考えられます。これらの分析を総括し、産業について千葉市としてどのような方向を目指していくかという部分はまだ、申し訳ございません、分析が整っておりません。市の方で、企業立地促進法に基づく地域基本計画の中では、IT・クリエイティブ、健康食品・健康生活、先端素材型のものづくり等の産業を伸ばすという方針を打ち出しています。また、都市計画マスタープランの見直しを進めている中では、例えば、調整区域等であっても高速道路のインターチェンジ周辺への産業集積や、インキュベーション施設を出た企業の立地促進などを検討しています。これらの市の動きと、今回の分析結果を合わせ、今後の取り組みを整理していきたいと思えます。

「(4) 東京圏における千葉・千葉市の独自性」に関しましては、人口、経済圏、地域経済分析を通じて、東京圏において独自性を有する圏域“千葉”を経済、雇用面で牽引していくという方向性を打ち出していきます。

「3 千葉市の人口の将来推計と分析」では、人口減少と高齢化は避けられないという前提のもとで、「(2) 人口の将来推計」を示しました。資料4の53、54ページをご覧ください。人口の将来推計は、合計特殊出生率と社会移動を設定し、クロスさせて算出しました。まず、合計特殊出生率に関しましては、パターン1とパターン2の2通りを設定しました。パターン1は平成26年3月に市が推計した合計特殊出生率が将来にわたって変化しないものと仮定しました。パターン2は国の地方創生シナリオと連動させたものです。国の地方創生シナリオは、希望出生率が2030年に1.80、2040年には人口置換水準である2.07に回復するというものです。千葉市の合計特殊出生率は国より低く、かい離が約0.93であることから、パターン2では国の希望出生率に0.93を乗算し、2030年に1.68、2040年に1.94という数値を設定しました。

次に社会移動ですが、パターンAでは、趨勢的社会増が周辺都市の人口減少により次第に縮小

し、社会増がゼロになると仮定しました。パターンBは、現在、東京方面への転出超過が年間約1,000人となっているところを、施策を投入することで半数に抑え、社会増加に年500人程度の上乗せをすると仮定しました。

56ページに、これらのパターンをクロスさせた4通りの推計を掲載しています。一番上のケースは、平成26年推計の出生率が回復せず、社会移動は平成26年3月推計時のトレンドが変わらないと仮定したものです。その下の3つのケースにつきましては、出生率を国と連動させたものにし、社会移動が平成26年のトレンドのもの、増加がゼロとなるもの、500人程度の上乗せをしたものと組み合わせました。57ページの図表44をご覧ください。一番下の丸印の実線は、平成26年推計を設定したもので、2060年の人口は70万5千人にまで下がります。一番上の小さめの丸印の実線は、出生率が改善し、さらに社会移動の500人の上乗せがあると設定したもので、2060年の人口は84万8千人程度となり、一番下の推計との差は14万人となります。この他、15歳未満、15～64歳、65歳以上の人口比率の推移を示しています。合計特殊出生率が回復する中で、人口ピラミッドが2060年に近づくほど、正常な形になる、もしくはその兆しが見えてくるようになります。資料1の「(3)行政区別分析」に関しましては、さらなる分析が必要であるため、本日の時点で記載はありません。

人口の将来推計を説明しましたので、先に「5 千葉市が目指すべき人口の将来展望」について申し上げます。先ほどお示しした4通りの推計のうち、一番人口減少が少ないパターンを千葉市の将来展望として設定しようと考えています。2060年の人口は84万7千人、高齢化率は2045年をピークに減少に転じるという推計になります。もちろん、合計特殊出生率の設定は、非常に楽観的であると認識しています。2.07という数字は、一基礎自治体の施策だけで実現できるものではなく、国の施策の中にどれだけ寄与させるかが問われると思います。日本の現状を見ると、この「千葉シナリオ」の実現性を危惧される部分が多々あるかとは思いますが、将来展望の方向に進むために、千葉市として様々な施策を打つ必要があるという意味合いを込めまして、一番減少が少ないパターンを「千葉シナリオ」とさせていただきました。

自然動態は、子育て支援の施策等を着実にやっていくほか、国の施策に寄与していくかを考える必要があります。千葉市だけの施策が数字に直結するかという点では難しいと考えています。社会動態は、居住地としての魅力や、職住のバランスが取れる千葉ならではのライフスタイルを訴えていきます。交流人口では、通勤・通学を含め、産業振興やにぎわいの創出に関わる施策を打ち出していきたいと思っています。

「4 人口減少が千葉市の将来に与える影響」につきましては、61ページをご覧ください。それぞれグラフ等は記載している所ですが、例えば労働力人口につきましては、推計方法にあります通り、雇用政策研究会報告書の「経済成長と労働参加が進むケース」では、高齢者や女性の社会進出が進むと想定した労働力率を用いています。62ページに図表がありますが、千葉市としてどのような数値が現実的か、さらに分析を進めたいと考えています。その他何点か記載されている部分も含めてもうしばらくお時間をいただきたいと思いますところがございます。

人口の将来展望実現のための、本市の基本目標（イメージ）は、「人口減少・少子超高齢社会に対応し、社会増と交流増に挑戦する」として、「選ばれる都市千葉へ」と表現していますが、「選ばれる」とはどういう意味かと思われるかもしれません。東京圏における千葉市の独自性を打ち出し、千葉の圏域をけん引するような表現に置き換えたいと考えています。

資料2の千葉市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」素案（概要）に移りたいと思います。冒頭で申しましたように、現段階では千葉市の実施計画に掲載されている事業や、地方創生の先行型として国の交付金に即した事業の範囲での記載となっておりますが、新規事業を含め、今後内容を拡充していく予定です。また、重点戦略に関しましては、それぞれ成果目標を設けていますが、目標の考え方等はさらに検討が必要だと考えています。全体の構成としましては、都市経営の3方針をベースにしており、目指すべき都市像、産業の部分、成熟都市、圏域の中心都市という方向性の中で、重点戦略の1をある面ベースにしなが、戦略の2～7を取り組んでいくという考えでおります。それぞれ例えば重点戦略の2では①～⑤の項目を施策とし、その下に具体的な事業をつくる形で進めて参ります。本来は、具体的な事業、取り組みを明確にお示しすべき部分と承知していますが、今しばらく時間をいただきたいと思います。それぞれの重点戦略に関し、千葉市として盛り込むべき施策がありましたら、提案を頂戴できれば、今後検討していきたいと考えています。

(3) 国家戦略特区の提案について

【稲生総合政策部長】

続けてで大変恐縮ですけれども、資料6「国家戦略特区の提案について」を説明させていただきたいと思います。まず10月30日に市政記者に投げ込んだ資料が付いております。地方創生を進める中で、この取り組みの1つといたしまして、国家戦略特区の提案を内閣府に行ったものです。この国家戦略特区は、資料の一番下に記載してございますように、国家戦略特別区域法等に基づきまして、その特別区域において、産業の国際競争力の強化及び国際的な経済活動の拠点の形成の推進、地方創生に資するものも含む、これらにつきまして、政府が講ずべき新たな措置に係る提案、なお、その事業実施が現行の規制や制度では不可能または困難である場合に、それを可能にするための規制や制度改革、こういったものを提案するとされております。

実はこちらの国家戦略特区は、東京圏や関西圏、新潟市などの第1段の区域の指定に加えまして、今年3月には、仙台市、愛知県、秋田県仙北市というところが第2段で指定されております。これはあくまで区域の指定をされて、初めてその中でいわゆる規制改革等のメニュー、事業を行えるというものであります。そういった意味では、この提案で即これから申し上げます内容ができるかという点必ずしもそうではない、かなりハードルが高いという部分ではございます。ただ、千葉市において、こういった方向性での取り組み、特に幕張新都心においては、東京オリンピックの開催等もある、あるいはこれまでのまちの形成や歩みを見る中でも、やはり先端的な取り組みをすべき地域であるという考えに基づいて、この特区にも謳っておりますが、様々な取り組みを行うという方向は、千葉市として、この特区の結果如何にかかわらず進めていくべきというふうに思っております。実際こういった内容、要素についても、冒頭申しましたように、総合戦略の方には盛り込んでいきたいと考えております。

そういった中で、今回提案いたしました具体的内容についてでございますが、カラーの資料の10ページ「幕張新都心における提案イメージ」をご覧くださいと思います。今回提案を4つしてございます。

大きく括りまして提案の1と2、先ほど局長が申し上げました通り、先端技術を活用した実証実験をこの幕張の地でやったらどうかということ。そのうちの提案1については、自動飛行い

ゆるドローンですね、これについて将来宅配サービスあるいはマンション等のセキュリティサービス、こういった実用化に向けての実証実験をしたらどうだろうということで、次のページにイメージ図がありますけれども、東京湾岸に、通販業者等のいわゆる物流倉庫がけっこうあります。ここから幕張エリアに、海の上を水平に持って来ることが1つ。それから、その次のページになりますが、幕張においては今後京葉線沿いにも、若葉住宅という46階建ての高層マンションが予定されている中で、今度は上下方向にドローンを使って配達するというので、このように水平と垂直をイメージして、それに向かっての実証実験ができないだろうかということが提案の1つです。

それから2つめにつきましては、13ページで、最近東京モーターショーで自動走行の話が結構テレビ等でありましたけれども、1つはロボットタクシーの無人運行ということで、今現在運転者が乗らないということは基本的に認められておりません。緊急時にドライバーが操作できるという中で実証実験が進められているところではありますが、そういったところも経過として行いながら、最終的には無人での自動走行というものを実証実験していきたいということが1つ。それとその右にありますように、パーソナルモビリティ、ある種の電動車椅子の発展系とお考えいただければよいのですが、個人が回遊するに当たりまして、自動走行できるものを、今現在は時速6キロまでというところを、状況を見ながら時速を上げたり下げたりといったところも含めての実証実験をできないだろうかというのが提案の2つめです。

それから、3番目、4番目は少し質が変わりますが、まず提案の3につきましては、これも新聞紙上に出ています、民泊というもの。東京オリンピックの競技会場辺りにホテル等ございますが、その稼働率あるいは今後の来訪者を含めて考えた場合に、やはり不足が生じるといったところを民泊によると。これは個人でマンション等の一部使っていない部分を、7日以上というような形の中で来られた外国人等にお貸しするというようなものが、この民泊です。

それから最後4番目としまして、幕張の道路空間において、バナーや飲食物販関係などが、他の仕組みでも道路占用許可の特例でできる部分はあるのですが、さらにより大規模イベントを道路空間で、というようなところを土地柄の意味も含めまして、提案をさせていただきます。

この4つの内容で提案をしているところで、繰り返しになりますが、今後、総合戦略の方にも、こういったような要素や姿勢を盛り込んで参りたいということで、あわせてこの部分も説明を申し上げさせていただきます。

では次のアンケートの関係について、政策企画課長から説明を申し上げます。

(4) 市民意識調査について

【藤代政策企画課長】

資料7でございます。千葉市の地方創生のための転出時あるいは転入時等のアンケート調査ということで、転出者2,000名、転入者2,000名、市民3,000名の計7,000名の方に、アンケート調査票をお送りさせていただきまして、現時点の集計では25%程度の方からお答えをいただいております。ですので、アンケート結果については、一応有為なものとして大体の数は確保していると考えております。

今回のアンケートについてでございますけれども、他都市では「何人お子さんがほしいですか」とか、そういうようなことを中心にしたアンケートをしているようでございますけれども、この

辺りは、既に国の調査等でも行ったりしておりますので、そこから先に進んだ形で、ちょっと突っ込んだ形のアンケートをさせていただきました。

資料7のはじめに転出時の状況等に関するアンケートがあると思いますが、2ページをご覧ください。ここでは、その方の世帯の状況を掴ませていただいております。いわゆるライフステージがどのレベルにあるのかを掴もうと考えております。3ページでは、転出時の状況を聞かせていただきました。転出の時期、転出前の居住地、あとは千葉市の居住年数など、この辺りで千葉市との関わりがどの程度であるのかなどを聞かせていただいております。この中では、親類等がどのくらいいるのかという辺りも聞かせていただいたところでございます。1枚おめくりいただきますと、4ページでは、居住関係の変化で、賃貸住宅か持ち家であるのかなどを聞かせていただいております。

5ページ以降は、我々の方で特にこの部分を聞きたいということで作成させていただいたところでございます。居住地選択のポイントということで、転居される際に何を重視したかを、1番から4番まで、ウエイトがどのくらいかかるか難しいところはあるのですが、順位づけをさせていただきました。住みやすさなのか、働くことを中心にするのか、あるいは子育てのしやすさのかなど、実際には簡単に順位づけできるものではありませんけれども、本人の感覚値として、どのようなレベル感にあるのかを、ここで掴ませていただこうと思っております。それによって、以降、住むことについて、あるいは働くことについて、育てることについて、楽しむことについて、というものを聞かせていただいておりますけれども、これらについてもウエイトのかけ方は難しいと思っているのですが、できればウエイトをかけて、どの部分が、あるライフステージにある方にとって重要と考えているのか、その辺りをうまく掴むことができないだろうかということで、他都市であまりやっぴいなさそうな調査ですので、挑戦的な取り組みになってしまいますけれども、この辺りで有益なデータを抽出できないかということで考えているところでございます。

今、転出時の部分を説明させていただきましたが、これは転入時あるいは今千葉市にお住まいの方々も、できるだけうまくこの選択項目が並ぶような形で、それぞれのカテゴリーの方に聞いて、その中で何がしかの差異が出るのか、その辺りを掴んで参りたいと考えております。現時点では、コンサルタント会社に分析を行っていただいているところでございまして、次回25日には中間報告的なものを委員の皆様方にお示しをさせていただきたいと存じます。説明につきましては以上でございます。

【北村部会長】

ただいま、事務局から「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略素案」「国家戦略特区の提案」「市民意識調査」について説明がありました。この後、委員の皆様方から、素案に対する意見や取り組みの提案などについて発言いただきますが、その前に、今説明した3点についてご質問はございますか。特に「国家戦略特区の提案」「市民意識調査」については初めて見るものだと思います。

【下村委員】

特区の申請についてですが、民泊はおもてなしの観点から全国で話題になっていますが、既存マンションを活用した民泊は、オリンピック期間に限定して考えていらっしゃるのですか。

【稲生総合政策部長】

そうではありません。オリンピック後においても、ということで考えております。総じて、具体的な制度設計はこれからですが、考え方としてはそういうことです。

【下村委員】

民泊は非常に難しい問題がありまして、既存の宿泊運営業者にとってはかなり脅威となるものがありまして、もともとは東京や大阪で外国人がなかなか宿を取れないという中で、ある意味おもてなしの観点から始まった経緯があるかもしれませんが、各々の地区において、宿泊業者すべてが100%稼動しているわけではなくて、民泊が当てはまってしまいますと、既存の宿泊業者の方を圧迫することになりかねないこともあります。補助などのバランスを取る中で、共存共栄を図れるように、政策的なものも含めて考えた方が良く、個人的には考えています。

【北村部会長】

民泊に関しては、今、揺り戻しが起きているところですよ。特区は4項目あるわけですが、民泊以外の3項目というのは、確かにオリンピックレガシーということで納得いくのですが、民泊は本当にレガシーになるのか、ちょっと毛色が違うものが入ってしまっている印象はあります。

【稲生総合政策部長】

ありがとうございます。先ほど、泊まる場所が不足という言い方をしましたけれども、オリンピック後もという中で、おっしゃっていただいたように、おもてなしという要素もあると思います。この4つが一つのストーリーにすべて合致するかということもありますが、そういった要素も含めながら考えていくという手はあるかと思えます。

【北村部会長】

市民意識調査は思い切ったもので、すごいなと思うんですけど、事務局は大変なのではないかなという気がしています。

【稲生総合政策部長】

先ほどの説明でも少しさせていただきましたが、最初は国と同じような希望出生率を取るようなアンケートを、と思いましたが、例えば、社人研で出しているものと千葉市の場合にどれだけ乖離があるのか、そうであれば、より突っ込んだ形で、この人口ビジョンあるいは総合戦略を策定するという意味合いだけではなく、どういったような意識の中で、転出や転入等において住まいを選ぶ、あるいは市の施策を選ぶのか、そういうところまで、せっきくの機会ですので、踏み込んでやってみようということで、これを今後どのように分析するかは悩ましいところですが、有効に活用していきたいと思えます。

【北村部会長】

他にいかがでしょうか。

【遠山委員】

下村委員と少し被るところもありますが、特区については突然出てきてびっくりしたところですが、2つあって、従前、幕張の特区といえばIRの話かと思ったのですが、それは違うということで、IRはもう諦めたのかどうかを聞きたいというのが一つ。2つめは、私自身ドローンが飛び交う未来都市を見てみたいというのは非常にありますが、オリンピックの前という短い時間であれば、本当にやらなければならないことは、バリアフリーや多言語化、駅から競技場まで

ゃんで行けるなどといった、地味な取り組みなのではないかと個人的には感じています。決してこの取り組みが駄目だということではなくて、もしこういうことをやるならば、そういうものもちゃんとやってよね、というのが私の意見です。

【稲生総合政策部長】

順番が逆で申し訳ありませんが、バリアフリーや多言語化については、幕張メッセが競技会場だという中で、当然求められてくる場所でもあります。そういう意味で、オリンピックへの対応という中で、そういった取り組みを当然していくということで、千葉県、千葉市、組織委員会が協力しながら取り組んでいくことになります。

それと I R についてですけれども、いわゆる推進法案を国会で審議していない段階で、いずれ法案が通らないことには何とも動きようがないという中で、ご存知かもしれませんが、市でも昨年度に基礎調査的なものを行いまして、年明けに報告会もしておるところです。そういう中で、その可能性も含めて、法案の方向を見るしかないというふうに考えています。

【北村部会長】

すみません、I R とは何ですか。

【稲生総合政策部長】

統合型リゾート、Integrated Resort と言いまして、カジノが真っ先に例に出されますが、M I C E、コンベンション施設あるいはホテルなどにカジノを含めたようなものでございます。

【北村部会長】

他にいかがでしょうか。

【大庭委員】

今おっしゃったようなことは、たぶん少し派手なアドバルーンを揚げてみましょうということなのかなと感じていて、ある意味ではプロパガンダの一環かなと思います。ドローンが飛び交って荷物を運んでなんぼのものだと思ったりしますし、カジノは正直言って生活環境から考えれば逆の発想だろうと思っているのですけれども、それはそれである意味で他の自治体でもすべて同じようなことをやる中で、交通立地を活かして、またオリンピックを持って来る、幕張メッセがあります、などといったことに絡めて少し注目を引こうというくらいのことなのかなと感じておりました。

先ほど、影響力係数と感応度係数のご説明がありましたが、基本的には影響力の強いものが人口の増加や雇用を支えていると解釈しておりますので、この場合は端的に言って、川鉄があつてのことだと思いますし、それからもう一つはサービス業に分類されていますけれども、突出しているのは運送業ということで、この辺のものを強化することは、逆に住環境を悪くすることだと。私はずっと千葉市内に住んでいて、川鉄公害というのが耳に入っていたものですから、その辺のところを、自己矛盾と言いますか、もう少し整理しておく。例えば、幕張の新都心開発においても、本来であれば、文教や研究をやるべきだったものが、住居系を押し込んでしまったために、本来のコンセプトとは違っていますよね。はっきり言ってしまえば、その場しのぎの雑なもの。もっと言ってしまえば、今度核のゴミを真ん中に埋めるなんていう話が出て来ていて、どうして人口増加と相容れるものになるのかという感じはしますので、色々書いてあつてご苦労されている経緯は分かるのですが、もう少し大鉈で捌いたようなものが前提にないと、議論しても結果として同じようなことになってしまうという危惧があります。では私にどんなアイディアがあるの

かと言われると困ってしまいますが、例えば、区ごとによる活用のコンセプトを分けてみるなど、もうちょっと大胆に考えてみる必要があるのではないかと感じました。

【北村部会長】

おそらくこれは、どこの創生会議でも言われていることだと思いますし、千葉県の方の議事録を見させていただいても、そういうことが言われていました。なかなか難しいという印象はありますけれど、前を向いて考えることは非常に重要なことだと思います。

基本のご質問は以上でよろしければ、各委員の方から少しずつご意見やご提案をいただきたいのですが、よろしいでしょうか。前回と同じように8時に終わろうと思いますと、一人何分ということになってしまいますが、今日は事前に資料を提出されている方がいらっしゃると思いますので、最初にお二方から資料に基づいて説明をいただきたいと思います。村館委員、お願いいたします。

【村館委員】

「千葉市産業連関表の可視化」という資料に基づいて、説明させていただきます。資料4の人口ビジョン素案の47ページに関連してお話したいのですが、千葉市の産業連関表を1990年、1995年、2000年、2005年、2010年と予測したものを可視化した資料になります。資料の6ページが2005年の千葉市連関表を可視化したもので、ホームページ等で公開されている産業連関表としては最新のものになっています。この資料は、先週、環太平洋産業連関分析学会で報告させていただいた資料をもとに作ったものです。2005年の千葉市連関表をご覧いただくと、千葉市の34部門の産業が可視化されています。これはFacebookの友達のつながりネットワークのようなイメージで、千葉市の産業のつながりを可視化したものになっています。中心に位置する産業ほど、様々な産業とのつながり、取引関係が多い産業で、端にある産業ほど他の産業との市内でのつながりが薄い産業となっています。丸の大きさが他産業とのつながりの大きさを示していて、千葉市の基盤産業といわれている「鉄鋼」が中心の方に来ていて、「商業」や「対事業所サービス」も中心の方に来ることが分かります。それから、「電子部品」や「情報・通信機器」などは端の方に来ていて、産業のつながりが薄いことが分かります。

11ページをご覧いただきたいのですが、これは2005年の千葉市産業連関表の中で、域外マネーという他の地域からお金を獲得している産業にラベルを付けたものになります。確かに千葉市の基盤産業と言われている「鉄鋼」や、資料4の人口ビジョンの47ページで、域外から稼げる産業として言われている「対事業所サービス」「商業」「運輸」「飲食料品産業」は、域外マネー獲得産業としてラベルが貼られており、他の地域からお金を獲得している産業になります。

このような可視化事例から私見を述べさせていただきますと、千葉市の基盤産業と言われているものは「鉄鋼」をはじめとする製造業であるとされています。しかし、さらなる基盤産業を誘致、育成する必要があります。と言うのも、千葉市のJFEスチールの工場が撤退や、不況になった時に困ってしまうからです。そのためどのような政策が必要かと考えますと、例えば、産業をピザの生地をまんべんなく伸ばすように育成していくよりも、ピンポイントで集中してオンリーワンの産業を誘致していく必要があるのではないかと思います。例えば、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに関連して、千葉市には障害者スポーツ関連の企業があると聞いています。その企業には限りませんが、千葉市にオンリーワンの企業を育成する必要があると思います。以上、私の意見を述べさせていただきました。

【北村部会長】

11ページのラベルの大きさは金額に比例することはないのですか。

【村館委員】

ラベルの大きさは金額に比例することはないです。ただ、元々の丸自体の大きさは、取引金額やネットワークのつながりによって大きくなっています。

【北村部会長】

人口ビジョン素案にも、基盤産業として「鉄鋼」が出ていましたけれど、全体の製造業が千葉市は弱いという数値も出てくるということですね。そういう中で、新しい産業をどこに打って出すかはすごく難しいことで、今村館委員がおっしゃった、障害者スポーツ、オーエックスエンジニアリングといったところがオンリーワンとして光ってくれるような、元気な企業が千葉市の中で生まれてほしいと、私も強く思っています。続きまして、村尾委員お願いいたします。

【村尾委員】

私の場合は、事前説明をいただきまして、自分なりに感じたことを事前整理しておくためにまとめたものです。資料4の人口ビジョンの3と4、シミュレーションと将来に与える影響辺りに関して、そもそもこの資料をどういう方に読んでもらって、どういうふうに影響していくかを考えました。千葉市は人口減の影響が他市と比べて相対的に少ないかもしれないという要素はあるのですが、昨今の増田さんのレポートやメディアでも言われているように、人口減に関する対策は待たなしという流れがあって、それに対して各自治体がどのように考えていくかという流れであれば、個人的な意見としては、シミュレーションする一つの仕様としては、頑張っちゃう方ではなくて、むしろ悪い方に見て、悪かった場合に、どのようなことを考えねばならないかとか、どういう風にすべきか、というふうに議論を活性化させるほうが良いかと思いました。国では希望出生率1.9といった数値がありますが、かなり難しいだろうと思いますし、つまり実際にシミュレーションの問題であれば、シリアスに見た上で、そこから出される結果をどうするかという手順を踏んでいった方が良いのかなと思います。

「4 人口減少が千葉市の将来に与える影響」に関しても、具体的にそうだったら困るというイメージを市民が読んで感じるかどうかという視点で、例えば、介護や福祉の世界では、労働力が非常に逼迫していて、それがきっかけで社会問題になったり、事件が発生したりということまで起こっている。そういったことの根底には、介護という職種自体の難しさもありますが、基本的にスタッフが不十分で回らないということもありますので、人口減少が千葉市の将来に与える影響は、色々な意味でネガティブな部分に関しても表現した上で、どうしていくかを見ていくべきだと思います。

「5 千葉市が目指すべき人口の将来展望」について、子育てに関する対策を行うと思いますが、出生率の上昇に関しても、同じように挑戦ということかなと思いますし、千葉市としてどうやったら出生率を少しでもアップできるかということ、また、社会動態の方では、他県からの流入が主ですが、前回申し上げたように、例えば留学生や海外からの外国人就労者が純増で増えてくれば、全体としてはプラスとなり、数としてはそれほど大きくないかもしれませんが、多少センシティブなテーマでもあるのですが、将来的には外国人ワーカーというのも避けて通れないほど、労働力は逼迫するのではないかと考えています。

総合戦略の方では、重点戦略2に、人材育成という言葉がありますが、例えば千葉大学は、ス

ーパーグローバル大学ということで、文科省で認められたグローバル人材育成のための全国でも11の大学に選ばれました。地域と今あるものだけでなく、外に対して、あるいは外から中へということで、グローバルな視点もいかがかと思っています。

重点戦略3の辺り、出生率に関しては、案はどちらかと言うと触らないというイメージですけども、やはり千葉市の挑戦目標として、何かあっても良いかなと思いました。

重点戦略4について、稲毛にスマートコミュニティというのがあるということですが、色々なセミナーなどで、リクルートのSUUMOとお話したところ、このスマートコミュニティはすごく評価が高い。他でも、柏ではシニアコミュニティあるいはシニアマンションといった切り出し方が出ていますが、せっかく稲毛のケースが良いのであれば、今後アピールしてはどうかと思います。テーマとしては、東京で大変なところ、ちょっと外に出て、そこを終の棲家として、趣味も楽しめる、後ろには自然が豊富で、良いことが展開できるのではないかと思います。

重点戦略7について、先ほども話題になった、おもてなしですが、今、私は日本語学習支援のボランティアをしているのですが、約1,000人のボランティアが登録し、約300人が活動しており、個別に毎週外国人に対する学習支援をしています。市内のボランティアはかなり活性化してきていて、せっかくのチャンスですので、東京オリンピックに合わせることもつながりますが、日本語ガイドや医療ボランティアなど色んな意味合いでネットワーク化を進めていけば、結果的にオリンピックの時にも役立つし、その後も、市の活性化や市の魅力にもつながるのではないかと思います。雑多に一つひとつコメントをした形ですが、以上になります。

【北村部会長】

総合戦略の素案については、一つひとつ細かいお話をいただきました。やはり人口ビジョンのシミュレーションのところですね。一番難しいのが、どこに置くのかによって全然話が変わってきてしまいます。例えば千葉県の人口シミュレーションは非常に楽観的で、絶対に達成できないと思われる数値が書かれているわけで、千葉市にはそれはやっていただきたいなど。やはり頑張ったらできる程度、後は今お話のあったように、駄目な場合どうするかという辺りで作っていただくと、何となく安心できる感じがします。ただいまの村尾委員のご意見について、よろしいですか。

それでは、他の方々に関しては順番に1人ずつご意見を伺いたいと思いますが、遠山委員からお願いいたします。

【遠山委員】

色々とお話が飛んだりするかもしれませんが、まず始めに、資料2の総合戦略素案の概要について、何点か聞きたいことがあります。今回、成果目標とKPIの二段構えの形になっていると思いますが、たぶん国は成果目標までは作るように言っていないはずですが、KPIを立てて、5年間数値目標として管理をしていくというのは大変な中で、その上段に成果目標を立てられているという、その違いは何なのか。と言うのも、資料5の総合戦略の本編を読ませていただくと、例えば86ページの重点戦略3の成果目標に「安心して出産できるまちだと感じる」があって、これはたぶんアンケート調査によるものだと思います。その下にKPIがありまして「子育ての不安や悩みを解消するための相談体制などが充実している」と立てられていて、これはどういう違いがあって、成果目標とKPIそれぞれにどういう意味合いがあるのかということが一つ。さらに、このKPIについて、アンケートを取っての数値なのでしょう。たぶん市民アンケート

で4割くらいが満足していて、5年後に6割くらい満足している形にすることかと思いますが。まち・ひと・しごとが始まった時の石破大臣が、要は数値目標として管理できるようにして、しっかりとやっていきたいと言う中で、例えば雇用を何人増やす、農業生産額を何億増やすといった、統計上、目に見えて数字が分かるものが、千葉県も含めてK P I に立っている中で、千葉市は逆にユニークな部分もあるのですが、アンケート結果はイメージとしては数字でないような印象を持ちました。ですから、こういう形のものが国で受け入れ可能なのかなと思いました。色々な市町村の総合戦略を私も読んでいますけれども、これは非常にユニークかなと、これが受け入れられれば良いのかなと思っています。

あと重点戦略3の施策（1）のタイトルにある妊娠の前に、結婚を入れられないものかぜひご提案したい。と言うのも、先だって、日本創生会議の増田さんの講演を何度か聞いていますが、日本で子どもが生まれなくなっているのは、結婚する人が減っている。若い人や結婚適齢期の人になかなか結婚しないというのが背景にあって、これまでの国の戦略や支援策が結婚した後からのことを中心に出来上がっていて、だから子育て支援ということになるのだと思いますが、日本はそれでは足りなくて、その前段階の結婚するところから支援していかないと、子どもが生まれていく環境を支援できないと。増田さんの言葉なので、本当の実感だと思いますが、要は色々なアンケートでも、確か千葉県のアンケートでも、出会うきっかけがない、そもそも結婚する気がない、といった回答もあります。そういうところを解決していくことが、本当の切れ目のない支援なのかなと。ただ、ここは確かにナイーヴなところなので、自治体として手を突っ込むことにリスクはあるのですが、本当の人口減少を止めるための施策等としては、確かにそういうところまで踏み込むべきなのではないかなと、そういう時代が来てしまったのかなと感じています。ですから、もしここに結婚ということを入れることができれば、千葉市の施策は日本の中でも非常にユニークな位置づけになるのではないかと考えています。

【北村部会長】

成果目標とK P I の違いについて、事務局いかがですか。

【稲生総合政策部長】

国の方で示しているものについても、成果目標とK P I という形にはなっております。逆に本市の場合、重点戦略を7つに分割している、どちらかと言うと、大本の考え方は、例えば人口何万人を維持するという形の目標を立てるのであれば、それに対する施策ごとにK P I という形だったと思います。こういった形で、戦略ごとにしているために、K P I と成果目標がやや近づいてしまっている感はあるかと思っています。それで、ちょっと話が飛ぶかもしれませんが、アンケートのような形になっている部分、千葉市の基本計画で政策評価を行っていくに当たって、いわゆる市民1万人アンケートというものと、行政側の客観指標、数値目標を設定して実施しており、それとのリンクを考える中で、今こういうようなやり方になっているというのが実態ではあります。アンケートというのも、対象者が変わる中でのアンケートということも含めて、非常に評価は難しい部分があります。基本的に、やはりアウトプットでの数値管理というものを入れつつ、アンケート部分というのは、また考えていく必要があるかなと。ただ今の段階では、基本計画の政策評価で使用している指標、それを使ってリンクさせているということです。

それと結婚の部分は検討します。行政の取り組みとして、いわゆるお見合いパーティーなども確かにあると思いますが、果たしてそれがどうなのかというところもあるような気がします。そ

うすると、それに見合う事業に何を考えるかという難しさはあるかと思しますので、検討します。

【北村部会長】

よろしいですか。では下村委員お願いいたします。

【下村委員】

資料4の人口ビジョン素案33ページにあるパーソントリップという切り口の中で、横浜、川崎、埼玉南部、さいたま市など他の市と違いまして、千葉市は都市圏との結びつきが非常に弱いことが改めて出ています。また、県内でも西南部や東部との結びつきも弱いという中で、逆を取れば、千葉市内のトリップ数が非常に多いということは書いてあるにしても、何か取り残されているというか、ある意味で閉鎖的なのかなといった気がしてなりません。ですから、この人口ビジョン素案から総合戦略素案に結びつける中で、何が違うのか、どう取り入れたらここが強くなるのかという観点を、総合戦略にぜひ結びつけていただきたいというのが私の意見でございます。

【北村部会長】

パーソントリップは非常に明確な、他とは違う特性が出ていて、確かにおっしゃられるように弱点かもしれませんね。これを強化するためにどうすればよいかということもあるかもしれません。続きまして、大庭委員お願いいたします。

【大庭委員】

専門的なことは申し上げられませんが、今の関係性の話については、横浜、大宮などと比べて、後背地がなく、交通の中間でないことが挙げられて、私どもは仕事柄、色々な地方銀行を見に行くことがあります。同じような悩みを抱えているところがたくさんあって、そうした場合に、自分で立ち上がっていくか、あるいは大都市との役割分担の中で成長していく形になるのかなと思っていました。

少しポイントがずれた質問で大変恐縮ですが、特区の話に関連して、先ほど村尾委員から、外国人留学生をもっと受け入れるといった提案がありました。私は幕張インターナショナルスクールの評議委員を仰せつかっていて、あそこは非常にすばらしいことをしているのですが、如何せん日本の学校教育の規制は非常に厳しくて、幼稚園と小学校6年生までしかなくて、英語教育中心でアグレッシブにやっているのですが、一番の問題点は、小学校卒業後の行き先がなかなか厳しいことです。では都市でやればどうか、あるいは飛び級という意見も出ますが、やはり教育行政の中の色々な引っかけがあつてなかなか上手くいかない。また私学との絡みもあつて色々面倒臭いことがあると話がありました。

どうせ特区申請をするのであれば、新技術と言っても10年も経てば陳腐化してしまう気がしますので、むしろ人の育て方や教育において特区をつくれれば、10年後、20年後、30年経っても千葉市の先進的な特徴として残っていくことが考えられるのではないかとということで、提案させていただきます。

【北村部会長】

教育特区のような形で、最初に特区ができた時に、足利市などで教育特区をスタートして、確か幕張でもありましたが、最近はあまり聞かなくなりましたね。

【大庭委員】

実は色々大変なのです。予算の問題や先生の確保などがありますし、ただ一番心配なのはやはり卒業後のことで、かろうじて評議委員の先生方の学校で何人か受け入れてもらうこともありま

す。特徴的な教育をすると受験に差し障りがあって、海外に出て行く方もいますし、外国人の子弟などもいて、根本的な枠を外してしまえば、もっともっと自由になって、村尾委員のおっしゃったように、優秀な留学生などをフレキシブルに受け入れられるのかなと思いました。

【村尾委員】

それについて、今日も千葉大に行ってきた、留学生が1,000人近くいらっしゃるのですが、就職が課題です。どのように千葉市に来てもらうかということもありますが、その後どういう会社があるか？どういう仕事ができるか？ということもちゃんと描いてあげる、それもあって留学生が増えてくるのが一番好ましいでしょう。千葉で大学を出た後、みんな東京の方で就職するのではなくて、千葉で働けるといいう出口戦略が描けると良いと思います。

【大庭委員】

逆に千葉で就労してもらわなくてもよいと思っています。我々は、ジャパンオフィスの優秀な人材を、海外展開しているベトナムやフィリピンの協力銀行のうち本国の銀行に戻し、もっと大きな仕事を任せて、日本との連携オフィスのキーマンになっている、女性でもそういうふうになっていますので、その辺も参考になるかなと思います。

【北村部会長】

ありがとうございます。続きまして、栗飯原委員お願いいたします。

【栗飯原委員】

私からは、人口ビジョンの若者の転出について提言させていただきます。総合戦略で言いますと、重点戦略の2、3、5、6に関連することです。先ほどの話にもあった、人の育て方についてですけれども、千葉市に住んでいて、人と人がつながれる仕組みが少ないのかなという思いがあります。せっかく子どもが育つ上で、谷津田や海など自然が多いのに、そこで子どもたちが自由に集まって遊べる場所が無かったりですとか、若者が、大学生など個人個人で就職活動をしていて、東京のようにカフェなどで、無料で企業の人とお話できるスペースが無かったりですとか、そういうものが少し足りないのかなと思う面があります。アンケート以外にも、大学生や主婦、NPOの方々にヒアリングなどをして、どういう仕組みがあったら、人と人がつながれるコミュニティづくりができるのかを聞き取ることができれば、仕組みができていくと思います。現場の声を聞く中で、人を育てる仕組みづくりが必要なのかなと思います。

【北村部会長】

人と人とのつながりのコミュニティを形成するということですね。今回のこのアンケートには入っていないようですね。

【藤代政策企画課長】

そうですね。

【北村部会長】

先ほどの意見の稲毛のスマートコミュニティも1つの参考で、千葉市にはコミュニティづくりの研究者がけっこういるはずなので、そういった方たちの話も聞くと参考になるかもしれません。続きまして、辻委員お願いいたします。

【辻委員】

中身に入る前に、質問をさせていただきたいのですが、重点戦略3の成果目標「こどもが、学校でいきいきと学び、心身ともに健やかに成長している」は77.4%で、2割強の方が、自分

の子どもは健やかに成長していないと感じていらっしゃいます。この具体的な中身というのは。

【藤代政策企画課長】

こちらの方は、1万人にアンケートをとったもので、実質は3割くらいしか回答は返ってこないのですが、その中で1問1答で答えていただいていますので、この部分はなぜかというところまでの深掘りができておりません。

【辻委員】

生活は、産業があって、学校や病院があって、はじめて維持出来る。そういう視点で今回の素案として提起されています総合戦略を見ると、そのことがかなり盛り込まれているなど感じています。

子どもは、労働団体でございますので、働いている人たちがどういう環境で働いているのか？気になるところです。特に女性の働き方を見ますと、子育てのために退職し家庭に入っていき、俗に言うM字カーブが、以前に比べてずっと後ろにずれ込み、底辺が5～6歳くらい後ろにずれ込んでいる。今の求人状況を見ますと、高卒の求人がほとんどない現状があり、進学せざるを得ない。結果、社会に出て行くタイミングが遅くなり、仕事を続けていく中に面白みも出てくる。その結果、晩婚化が進み、子どもが少なくなるということ。私はそういうところにも少し目を向ける必要もあると思います。現状の社会構成を人材という切り口で見ると、非常に優秀な方もいらっしゃるれば、普通の方もいらっしゃる。そういう人材を幅広く吸収できる産業という目を見た時に、やはり製造業がそういう職種に当たるのだらうと思っています。千葉市は、コンビニートも含めて多くの製造業を抱えている。そこをどうやって盛り上げていくかということも千葉市に住んでいただける1つの大きな要素になると思っています。

冒頭申し上げましたように、今回提起されている素案には、そうした庶民感情にマッチした考え方が盛り込まれており、基本的にこの素案で行っても良いのかなという印象を持っています。

【北村部会長】

普通の人が大部分ですので、大部分の人が就労する産業をしっかりと充実させるべきだというお話だと思います。続きまして、吉開委員お願いいたします。

【吉開委員】

まず2つ質問がありまして、1つは、情報通信業について今後の成長が見込まれる分野であるとの説明がありましたが、この情報通信業といった場合、私の仕事も「放送」ですけれども、どういう内容の仕事を目指すのかと、それがなぜ今後成長が見込まれるのでしょうか。もう1つ、総合戦略素案84ページに、「大学卒業後3年以内の離職率が約3割」と書かれていますが、ミスマッチなど具体的にどういった理由でこうなっているのか、という2点を質問させていただきたいと思っています。

【藤代政策企画課長】

まず情報通信業でございますけれども、かなり幅広のものとなっております。例えば、例外的に、コールセンターも情報通信業の範疇に入ると聞いておりますし、あるいは我々がイメージするものと違うものとしては、NTTなどのいわゆる本社ではない部門も入るというお話ではございます。ただ、我々として、なぜこの情報通信業かという部分でございますけれども、人口ビジョン49ページをご覧になっていただきますと、図表37がございます。このうち表頭に、特別区部とありまして、千葉市から年間に約1,000名が東京の方に流出しております。そのうち

情報通信業は500名くらいが千葉市から東京へ出てしまっています。先ほどお話をいたしました、NTTなどが出て行ったということであれば、それは意見もできる訳ですが、そういう状況ではなさそうでございます。また、千葉市はコールセンターを設けるような土地柄でもありませんので、そういうものでないとする、もしかすると、本当に技術を持った方が東京に抜けている可能性がある。人口の部分に加えまして、そういう知的な部分での集積が、もしかすると東京に逃げてしまっている可能性があるということ、これはなんとかしなければいけないということが1点ございます。加えて、なぜ情報通信業かというお話でございます。これは一般的なお話として、やはりイノベーションが期待できると。1つ大きなものができると、それに基づいて周辺分野の集積をもたらすことも可能な産業であると考えております。これは簡単にはいかないということは重々承知しておりますけれども、我々が目指す方向としては、やはりこれは追いつかなければいけない。それは先ほど申し上げました、人口と知的な集積の部分が抜け出しているかもしれないということを考えますと、本市の未来を考える上では、そこは必要なだろうというふう考えているところでございます。

「大学卒業後3年以内の離職率が約3割」という記述につきましては、統計的な数字から持ち出してしまっているもので、実際に詳しく千葉市の状況を分析したものではございません。ただ、これは色々な部分が考えられようかと思えます。雇用状況の中で、自分が望まない職に入った方が離職する場合もあるでしょうし、あるいは実際の問題として、本当にマッチしないような状況も考えられます。ここにつきましては、今は一般的な傾向として書いてございますけれども、もう少し分析が必要でしょうし、もしかすると記述内容を変更しなければならないというふうには考えているところでございます。

【吉開委員】

ご丁寧にありがとうございました。まち・ひと・しごとということで、かなり幅広い戦略を立てているということは分かりますが、重点戦略2の「都市の活力を支える産業の振興と人材の育成」がまずあって、人が働ける環境があってこそ、結婚や出産、教育につながるだろうし、オリンピックやパラリンピックを生かすことなどにもつながると思うので、最初の質問をしました。まだ他の自治体との調整をされている最中だということは分かりますが、次の段階では、都市の活力を支える産業の振興、例えば基盤の製造業を生かしつつ、かつ先ほどお話をした情報通信業をどうやったら誘致・育成できるかといった戦略も含めて、ぜひ書いていただけたらと。それが戦略において一番大事なような気がします。この点について詳しく書いていただけたらと思います。

情報通信は、私も放送の仕事をやっていますが、今はどこでもネットがありますから、仕事ができると。ある意味で離島でもできてしまうようなところがあるので、千葉の首都圏に近いというメリットを活かすには、どのような形で誘致・育成していくのかということも含めた戦略を書いていくことが必要なのではないかと思います、そういうことを次回ぜひお願いしたいと思います。

【北村部会長】

人が働ける環境が重要で、それをつくるということですね。続きまして、矢田委員お願いいたします。

【矢田委員】

いくつか感想めいたことですが、先ほどから、製造業や情報通信業といった産業を誘致して、働けるような環境、雇用創出をというお話がございまして、その関係で、最近ハローワークを通じて色々求人を見ておられますと、製造業の求人が若干増えてきているというのと、情報通信業の求人がここへ来て対前年比で激減しているという状況があります。ただ中身を見ますと、製造業で求人が増えていると言っても、実は製造業の会社がやっている給食サービスの調理員の求人がたくさん出ているとか、逆に情報通信業でかなり求人は減ってきているのですが、中身を見ますと、情報通信業の営業マンの求人が激減しているとかということで、ハローワークにいただいている求人だけをとってみると、働きやすい、働きたいと思える求人が非常に少ないように感じております。そういった産業の誘致も大切なんですけども、働く方が働き甲斐や、働きやすさ、やりがいがある仕事、そういった仕事が付いてこなければ、産業を誘致しても、千葉に住んでいる人が幸せになるかという、なかなかそういう状況にはならないのではと思いました。

それから、アンケート調査につきましては、非常に興味深いと思っております。アンケート以外にも大学生や主婦層にヒアリングをするというのも非常に興味深いので、なかなか難しいとは思いますが、そういったことで意見を集めていただければと思います。

総合戦略を拝見させていただいても、網羅的な内容になっていて、実際東京にはなくて千葉にある魅力とか、周辺の市町村から千葉市に人が来る魅力というのがどこにあるのかが、具体的にないで、よく分からないので、こういったアンケート調査やヒアリングを通じて、色々抽出していくことが非常に有意義なのではないかと思えます。

あと、中身の方で若干気になったのが、総合戦略の方の特にアクティブシニアの参画推進で、高齢期になっても生き甲斐を持って働く、いきいきと暮らしていくというところで、ここには高齢期の就業がイメージとして入っていないで、生涯現役で働いてもらわないことには、労働力人口も激減していきますので、高齢期になっても働けるような環境が非常に重要なのではないかと考えています。

千葉県全体では、実は高齢者の方が働ける環境が全国と比べて割と整っているという統計データもございまして、例えば、70歳以上まで働けるような制度を有している企業が全国で4位という状況もございまして、子どもを産み育てながら、高齢期になってまでいきいきと働けるような、さらには介護が必要になれば介護サービスを安心して受けられるような、安心して暮らせるような都市になっていくと、そういうことをうまくアピールできれば千葉に住みたいと思う方もいるのではないかという感想です。

【北村部会長】

吉開さんがおっしゃった、人が働ける環境が重要というのにプラスアルファして、働きたいという環境をつくるのが重要というのと、あと、高齢者が働ける環境になっているというのは、私は初めて聞いたので、これは非常に売りになると思いますね。続きまして、田村委員お願いいたします。

【田村委員】

私は千葉市に恋焦がれて来たわけなんですけれども、先ほど優秀な人もいれば、そうでない人もいるというお話があったのですが、そうでない一人の私なんですけれども、この千葉市に来て、千葉市は頑張れる市だなとすごく思っているんです。来たばかりですので、感想のようなものを話

させていただければと思います。千葉市内で事業をしまして、千葉市の会合に出るようになりました。そうしたら私はどんどん千葉市が好きになりました。住所も千葉市に転居するということで、ずいぶん迷いまして、当時私は迷うとすぐに古峯神社にお祈りに行くんですね。そこでおみくじを引いた通りに、今までもしてきたんです。そのおみくじで、移転したいんだと、千葉市に行きたいのと拝んでもらいましたら、結果は大吉で「移転良し」と出たので、さっそくこちらに来ました。それで、その理由はどっちみち税金を払うんだったら、千葉市に納めたいと心から思って、引っ越して来ました。

若い女性を千葉市にというようなことがありましたので、何が魅力なのかなと思って、千葉市の魅力を娘とも話をしてみました。来てとても良かったと思ったのは、1つは交通がすごく便利なんです。八千代市は16号しかなかったので、どこに行くにもちょっと大変でした。ところが、ここに来たら、京葉道路、東関東道、館山道、外房に東金、この高速道路までわずか5分で行けるんですね。うちの納品先の一番が東京だったんです。次に、市川、浦安、銚子、成田、館山の順だったんですね。だから、何でもっと早くここに気がつかなかったんだろうと今は思っています。納品の担当者も、千葉に着くと八千代までもう少しと思ったそうです。それがもう今は通うのがとても楽だということを知られました。

それともう1つは、市場がやっぱりでっかいんですね。千葉市ってすごいなと思いました。八千代ではなかった、新規事業所に行つての営業が比較的早く決まるんですね。大きな注文をいただいたりもして、ちょっと驚いています。

あとは、支援制度が充実しているということです。八千代の利子補給というのは、額が少ないのかどうか分かりませんが、欲しいと思って銀行にお願いに行く頃には、もういっぱいだと言うんですね。もう終わりましたということで、いつも断られてきたんです。でも千葉市に来たら、遅いからもうダメだねと思っていたことが、行くと間に合うんですね。だから千葉市はすごく予算があるところなんだと気がつきました。その結果、娘も電気屋さんをやっているんですが、千葉市に来ているうちに、その電気屋さんも八千代から千葉市に来たいということになりました。私に相談がありました。私は踏ん切りがつかないんです。35年も同じ場所でやっていたのに、なぜと思ったんですが、娘がある日、看板を業者に言って取って行かせてしまったんですね。看板まで取られてしまったら、私はもう決断するしかないと思ひまして、それで娘に任せることなので、良いですよということで、千葉市に来ました。これもやっぱり、効率の良さで良い結果を出してしまひまして、9月の決算ではとても良かったなと思ひました。千葉市に来たばかりなんですけれども、この市はやっぱりすごいと思ひます。本当に来て良かったと思ひます。

あと娘の住宅探しで気づいたことで、この市はどういうわけか3LDKが多いんですね。娘は子どもが2人いますから4LDKでないと住めないんです。それで4LDKを探すのが難なところなのかなということも思ひましたので、もうちょっと広い住宅環境をと思ひます。空き家対策とかと合わせて、ユーカリの山万のように、一生住み続けられる居住環境の対策をお願いできればもっと良いなと思ひています。

【北村部会長】

田村委員の方からは交通の便が良いことが長所なんだということ、それから圏域が大きいということですよ。最後に住居環境が良くなるともっと人が来やすいのではないかと、そういった

都市整備も含めてやっていただきたいということです。

私の方から簡単に1点だけ。「千葉圏域」、「圏域千葉」という言葉をぜひ使っていただきたいなというお願いです。前回の「一都二県+千葉」は評判が悪かったとお聞きしているんですけど、プラス千葉というのがダメだったのかもしれない。色々なものが千葉にはあるんだよということにはなる。そこからはじめ千葉の存在感を強くアピールする。これだけ特色があると、確かに人口ビジョンを見てもすごいなと思いますから、この辺を活かせるようなプランを作っていただければと思っております。

ということで、全員回りましたけれども、とにかく時間がなくて申し訳ないですけど、これはちょっとまた方策を考えなければだめですね。各委員の方々が、ここの場でなくても何か意見を出せるような方策をぜひ考えていただきたいと思います。ということで、特にこの場でこれだけは言っておきたいということがなければ、議題5の「今後の進め方について」に移りたいと思いますが、よろしいですか。

【委員一同】

(異議なし)

(5) 今後の進め方について

【北村部会長】

それでは、事務局の方からご説明をお願いいたします。

【藤代政策企画課長】

遅くなりまして申し訳ございません。今後の会議のスケジュールの方を配布させていただいております。次回11月25日でございます。18時より、前回行いました千葉中央コミュニティセンター8階の会議室の方で開催させていただきたいと存じます。当日でございますけれども、まず市民アンケートの中間報告が出ますので、そちらの方をご説明させていただきますが、次回につきましては、できる限りご意見をいただき、また委員の皆様方の中でご審議いただく、ご議論いただくような時間を設けさせていただきたいと存じます。その形につきましても、若干論点を絞りまして、総合戦略の重点戦略ごとに行うなど、進め方を工夫させていただきと思いますので、こちらの方は部会長に相談させていただきたいと存じます。

(6) その他

【北村部会長】

次に、「その他」ですけど、事務局の方で何かございますか。

【藤代政策企画課長】

2点ございます。1点目が、お手元にカタログ商品券というものの冊子を配布させていただいております。こちらの方は、国の地方創生の先行型を活用して、ひとづくり応援カタログ商品券というものでございます。簡単に説明させていただきますと、地方創生の取り組みと連動させていただいて、人づくりということをテーマに千葉市は行わせていただきました。他の都市とは違った形で運用しているのですけれども、いわゆる資格取得につながるもの、あるいは健康づくり

を行っていただく。先々不健康になられて我々がお金を支出するよりは、今のうちに健康になっていただきたいということで、脳ドックの取り扱いなどについても、この中に混ぜ込ませていただいております。そうした取り組みをさせていただいておりますので、報告させていただきます。

2点目でございます。本日の会議録でございますが、事務局の方で早々に作成いたします。その後、各委員の皆様方にご発言部分をご確認いただいた後に、部会長に最終的なご確認をいただいで確定とさせていただきますと思いますので、よろしく願いいたします。

【北村部会長】

1つめは、ひとつづくり応援カタログですね。それともう1つは議事録の確定ということですよ。よろしいでしょうか。

【委員一同】

(異議なし)

3 閉会

【北村部会長】

他に委員の皆様から何かございますか。もしなければ、これで閉じさせていただきたいと思っております。では長時間にわたり、どうもありがとうございました。

以上